

調査の概要

1 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査の対象

小学校第6学年、特別支援学校小学部第6学年の全児童
 中学校第3学年、中等教育学校第3学年、特別支援学校中学部第3学年の全生徒

3 調査の内容

①教科に関する調査（国語、算数・数学）

- ・主として「知識」に関する問題〔国語A、算数・数学A〕
- ・主として「活用」に関する問題〔国語B、算数・数学B〕

②質問紙調査

- ・児童生徒に対する調査

※なお、平成25年度調査は、きめ細かい把握・分析ができるよう複数冊子化（共通項目を含む、Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの3冊子を作成）して実施。各冊子は、各都道府県内においてできるだけ偏りなく実施されるよう学校単位で割り振り、各学校は割り振られた1冊子のみ調査を実施。

- ・学校に対する調査

4 調査の方式

悉皆調査

5 調査期日

平成25年4月24日（水）

6 平成25年4月24日（水）に調査を実施した学校・児童生徒数

北海道（公立）

〔参考〕全国（公立）

	対象学校数(校)	実施学校数(校)(実施率)	児童生徒数(人)		対象学校数(校)	実施学校数(校)(実施率)	児童生徒数(人)
小学校	1,118	1,113(99.6%)	43,575	小学校	20,458	20,418(99.8%)	1,108,272
中学校	633	631(99.7%)	43,395	中学校	9,886	9,752(98.6%)	1,027,458
合計	1,751	1,744(99.6%)	86,970	合計	30,344	30,170(99.4%)	2,135,730

※ 小学校には特別支援学校小学部を、中学校には中等教育学校、特別支援学校中学部を含む ※ 札幌市を含む
 ※ インフルエンザ等により後日実施した学校（小5校、中2校）は、実施学校数(校)に含まれていない

【用語説明】

語句	説明
平均正答率	平均正答数を百分率で表示。 ○国語A、国語B、算数・数学A、算数・数学Bごとの平均正答率は、それぞれの平均正答数を設問数で割った値の百分率（概数）。 ○学習指導要領の領域、評価の観点、問題形式、設問ごとの平均正答率は、それぞれの正答児童生徒数を全体の児童生徒数で割った値の百分率。
中央値	集団のデータを大きさの順に並べた時に真ん中に位置する値。 平均値とともに集団における代表値としてとらえられる。
標準偏差	集団のデータの平均値からの離れ具合（散らばりの度合い）を表す数値。 標準偏差が0とは、ばらつきがない（データの値がすべて同じ）ことを意味する。

【調査結果の解釈等に関する留意事項】

- 本調査の結果については、児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることや、学校における教育活動の一側面に過ぎないことに留意する必要がある。
- 本調査の結果においては、平均正答数、平均正答率等の数値を示しているが、これらの数値のみで必ずしも調査結果のすべてを表すものではなく、中央値、標準偏差等の数値や分布の状況を表すグラフの形状など他の情報と合わせて総合的に結果を分析・評価する必要がある。また、個々の設問や領域等に注目して学習指導上の課題を把握・分析し、児童生徒一人ひとりの学習改善や学習意欲の向上につなげることも重要である。
- 平成25年度は悉皆調査であるが、平成24年度は抽出調査であったため、平成24年度の国の数値については、抽出調査の結果を用いている。一方、平成24年度の北海道の数値については、札幌市を除くすべての市町村が、抽出対象とならなかった学校も希望利用という形で参加したことから、これらの学校の結果を合算集計した結果（札幌市の抽出校を含む）を用いている。このため、平成24年度と平成25年度の数値は単純な比較ができないことに留意する必要がある。